



# 最短経路

離散数学・オートマトン

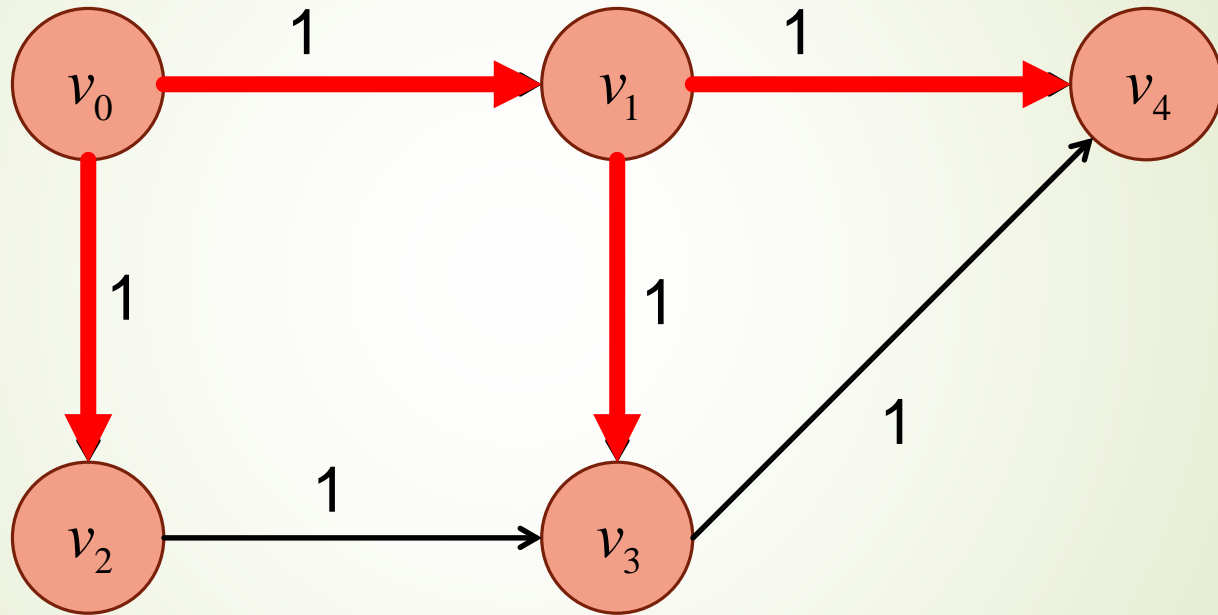
2020年後期

佐賀大学工学部 只木進一

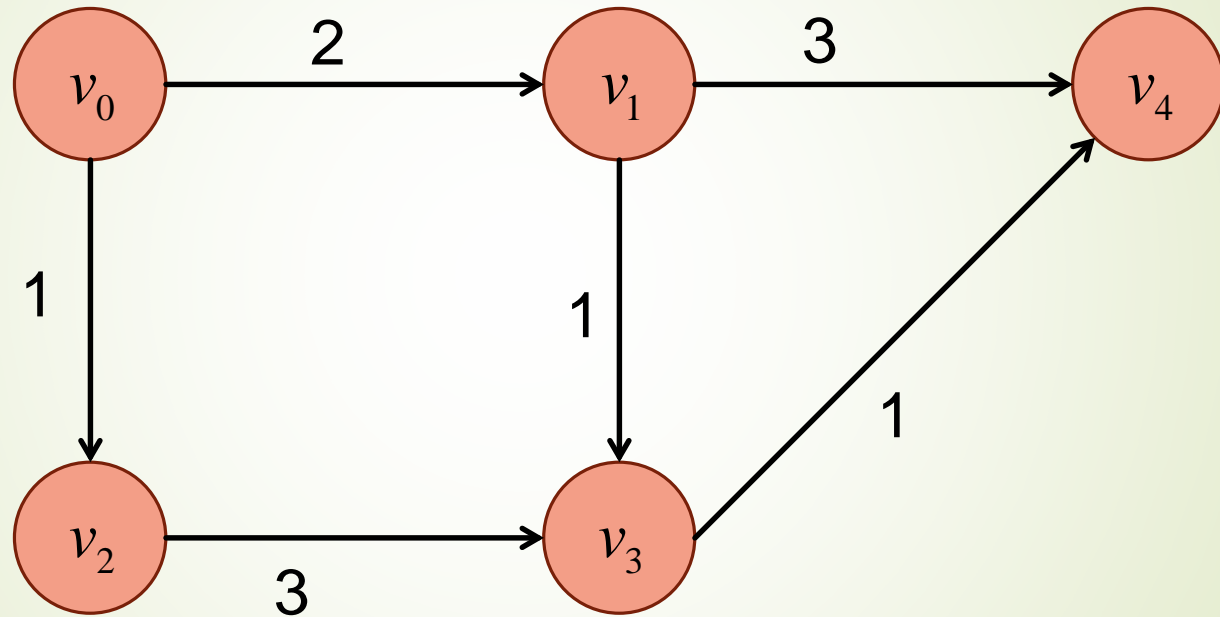
# 最短経路問題とは

- ➡ 有向ネットワーク
  - ➡ 各辺に距離・コスト (正の実数)
- ➡ 始点から終点までの最短有向道を見つける
  - ➡ 辺の向きがそろった道
- ➡ 距離・コストの組み合わせ最適化問題

すべての弧の距離が同じならば  
幅優先探索で十分

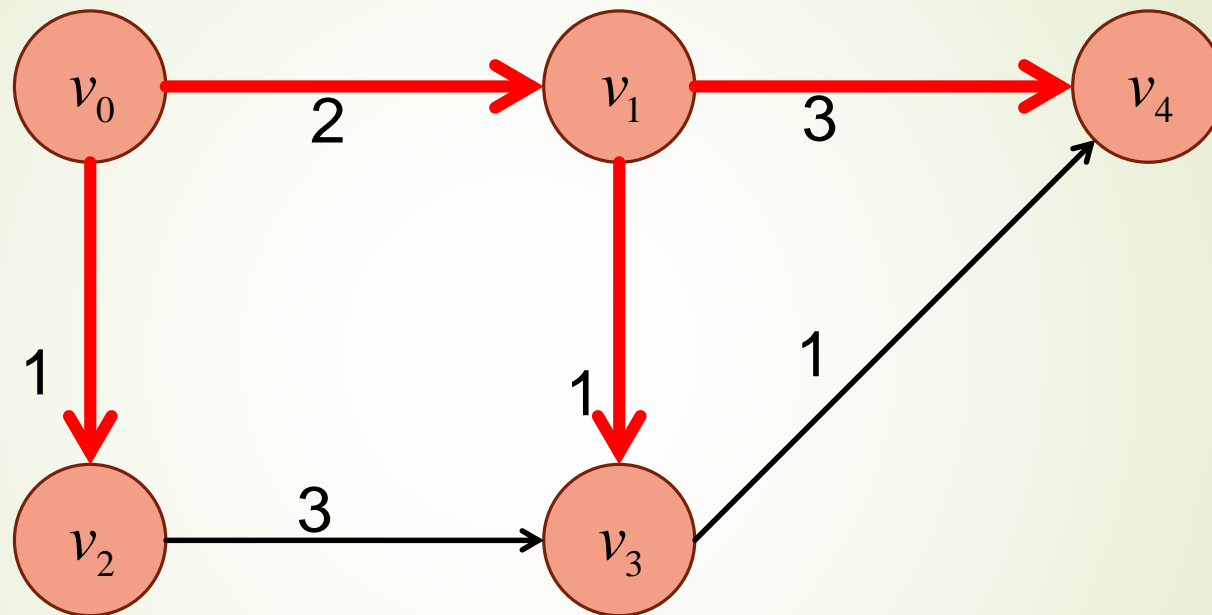


# 幅優先探索ではダメな理由



弧の長さがばらばらの値

# 幅優先探索では



- $v_4$  への経路が  $v_0 \rightarrow v_1 \rightarrow v_4$  となり、距離が5
- しかし、経路  $v_0 \rightarrow v_1 \rightarrow v_3 \rightarrow v_4$  のほうが距離4
- **頂点の移動数が多くても、距離の短い道がある**

# Dijkstra法: 初期化

$p(v)$ : 始点から頂点 $v$ への距離

$q(v)$ : 始点から頂点 $v$ へ経路の、 $v$ の一つ前の頂点

$l(e)$ : 辺 $e$ の長さ

$$U = \{v_0\}$$

$$W = \emptyset$$

$$p(v_0) = 0$$

$$p(u) = +\infty (\forall u \in V \setminus \{v_0\})$$

$$q(v) = \text{NULL} (\forall v \in V)$$

$U$ を $p(w)$ によるヒープとして実装すると効率的

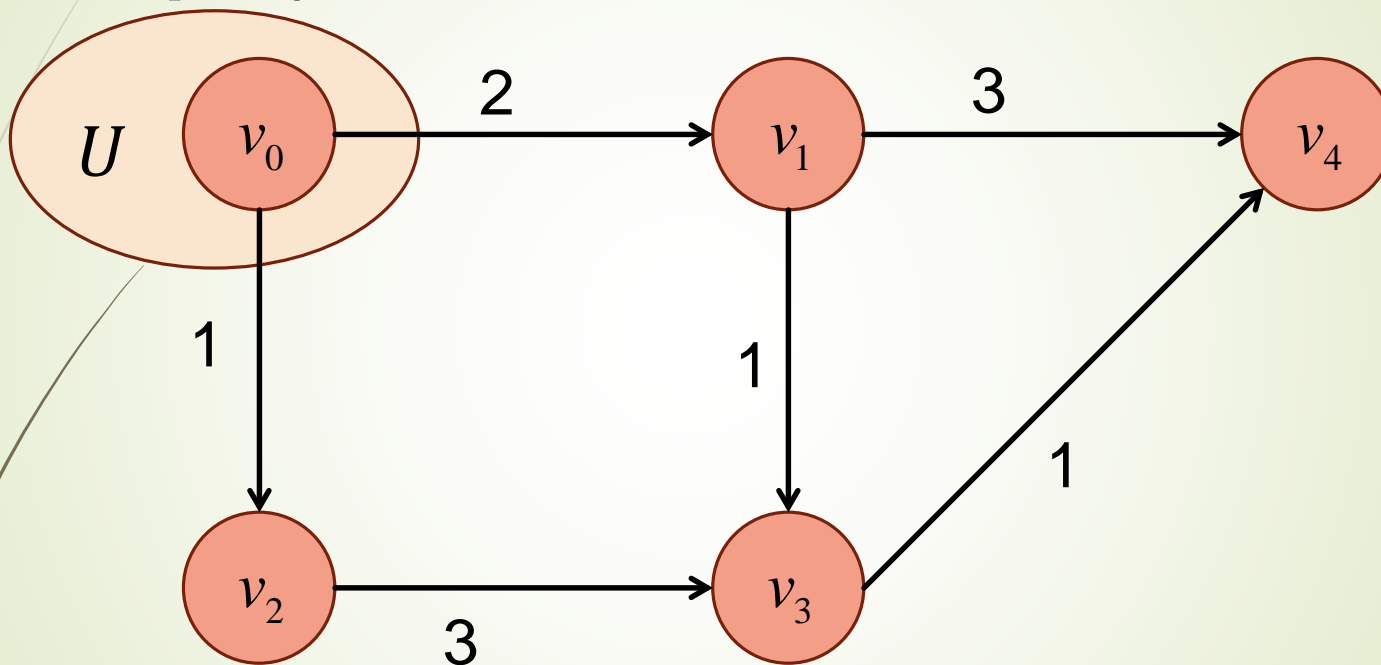
# Dijkstra法: アルゴリズム

```
1. while (  $U \neq \emptyset$  ) {
2.    $w = U.poll()$  //  $p(w)$ が最小である  $w \in U$ 
3.   forall (  $e \in \delta^+w$  ) {
4.      $x = \partial^-e$  //  $w$ の隣接頂点
5.     if (  $p(x) > p(w) + l(e)$  ) { //  $e$ を使ったほうが近距離
6.        $q(x) \leftarrow w$ 
7.        $p(x) \leftarrow p(w) + l(e)$ 
8.       if (  $x \in U$  ) {  $U.reduceValue(x)$  //  $x$ の値を変更}
9.       else {  $U.add(x)$  //  $U$ に  $x$ を追加}
10.    }
11.    $W \leftarrow W \cup \{w\}$ 
12. }
```

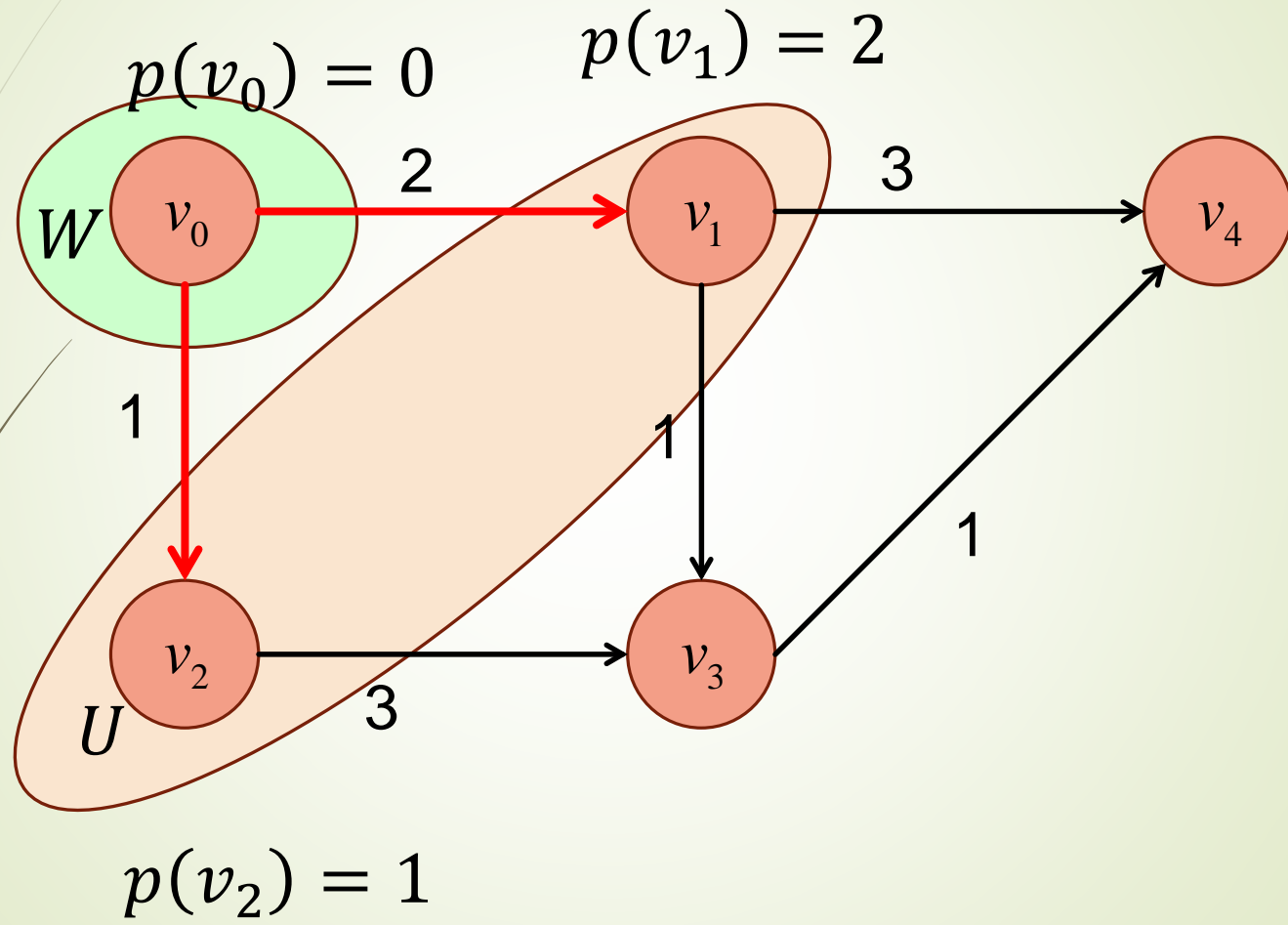
ヒープ中の  $p(x)$  の値が  
減ることがあることに注意

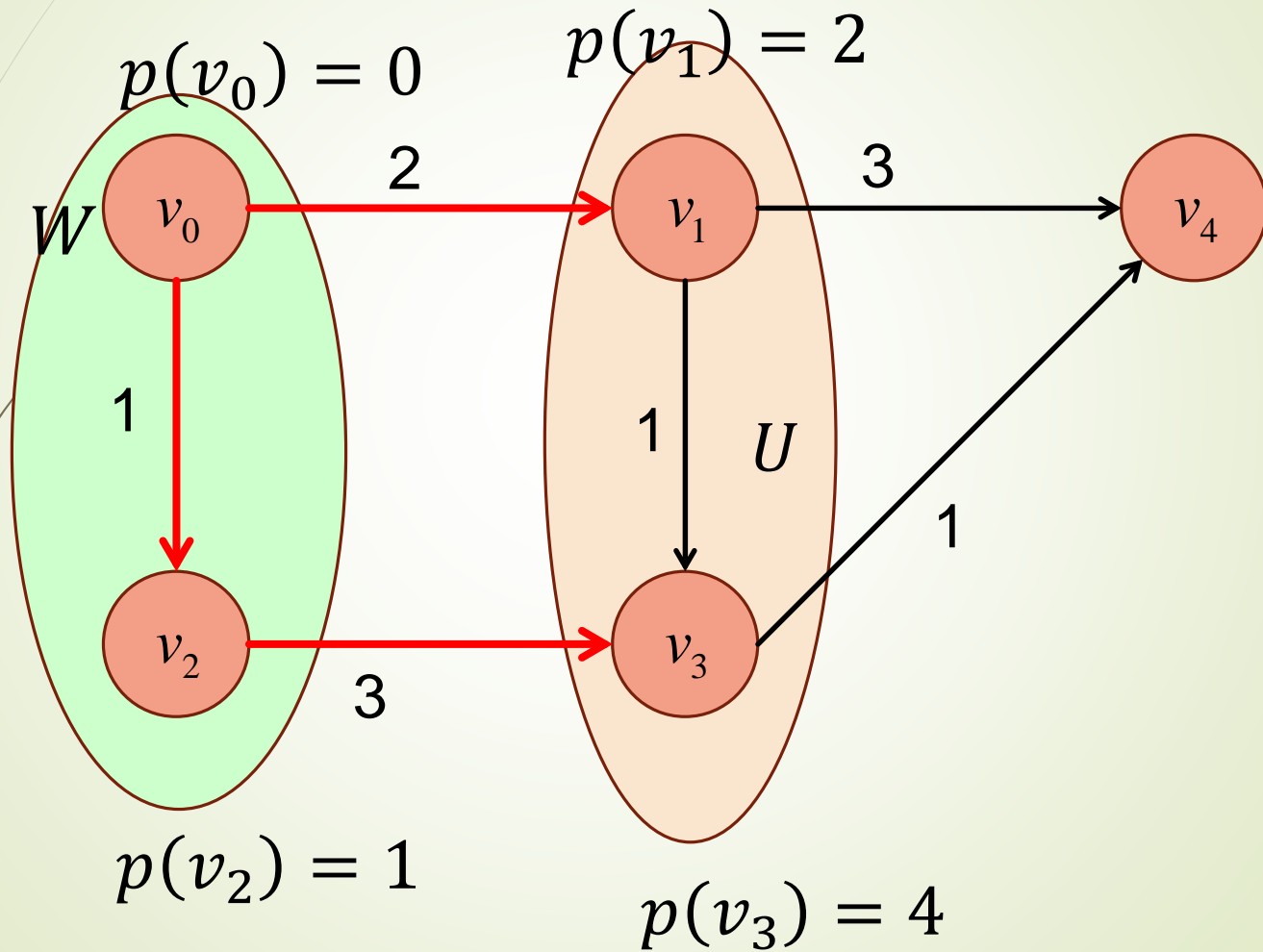
## 例 1

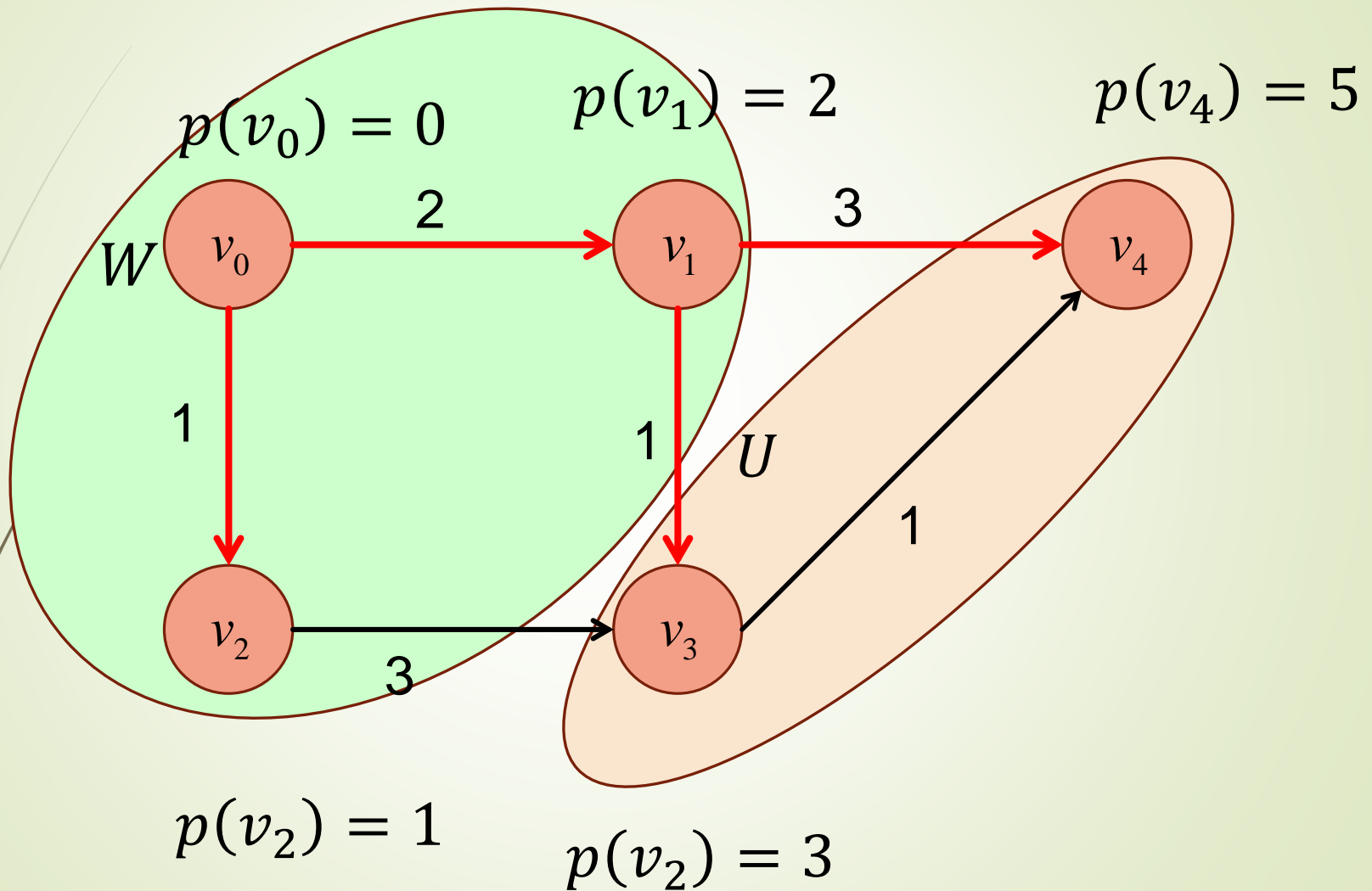
$$p(v_0) = 0$$





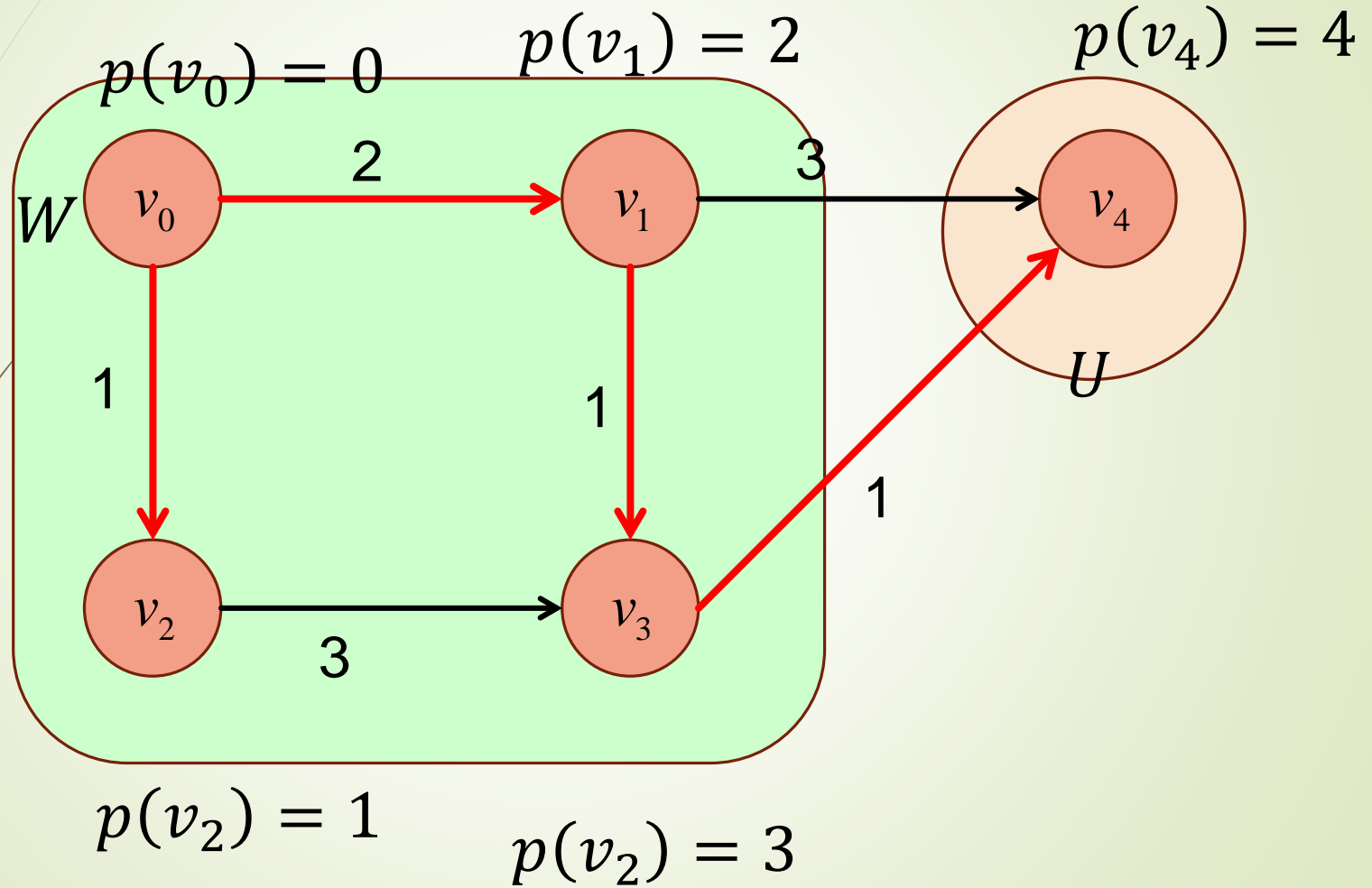


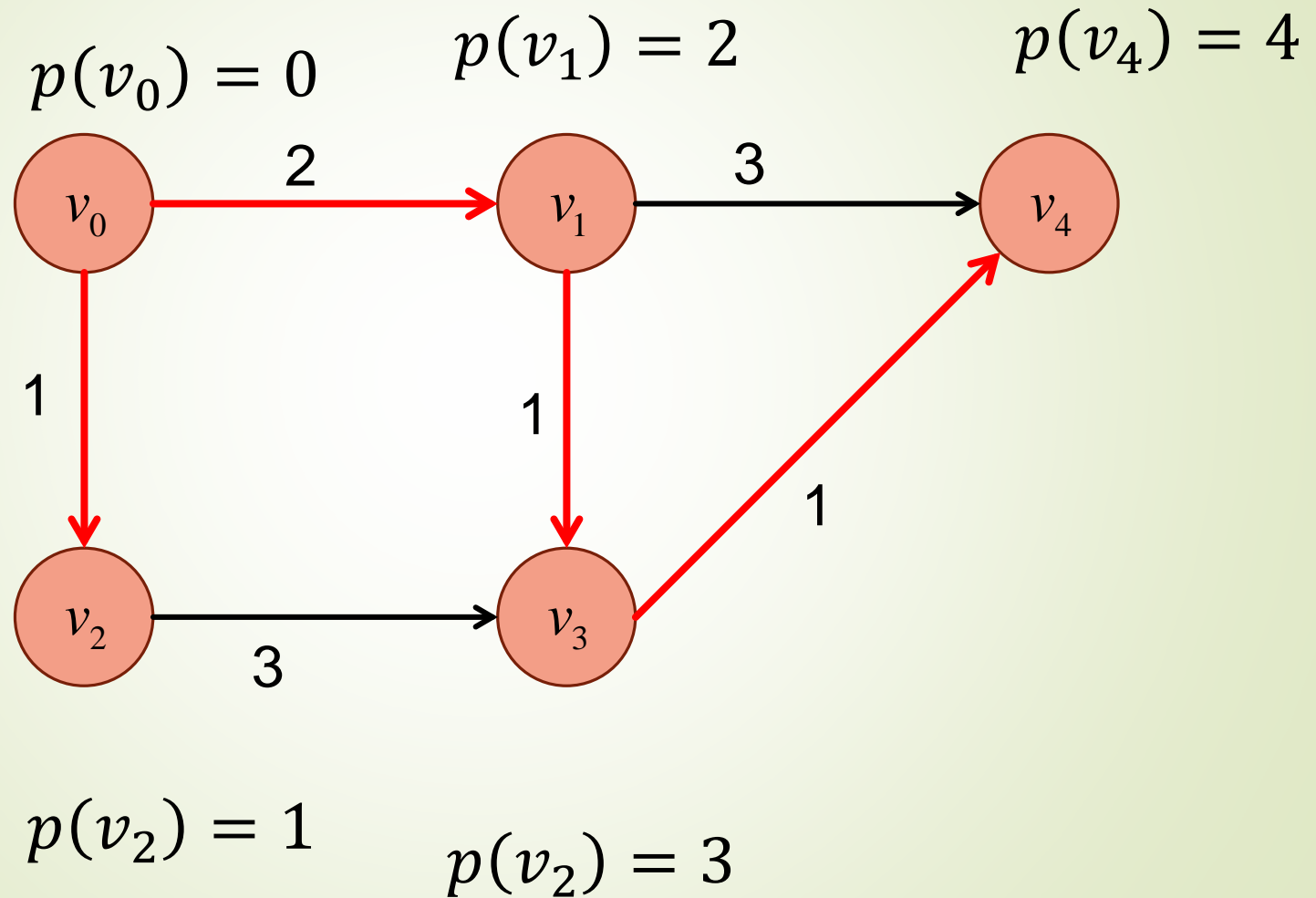




ここが更新されて  
いる

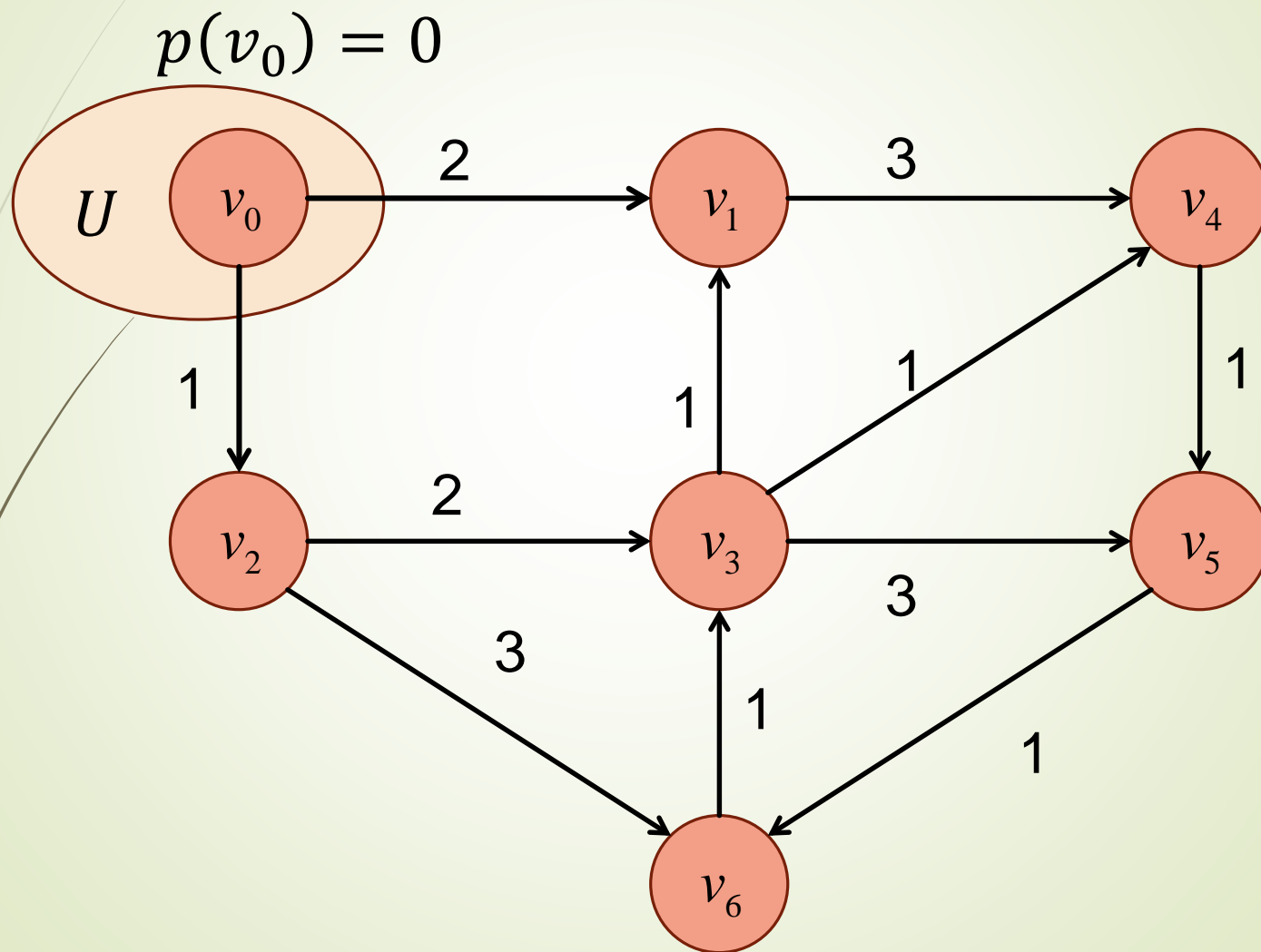
ここが更新されて  
いる

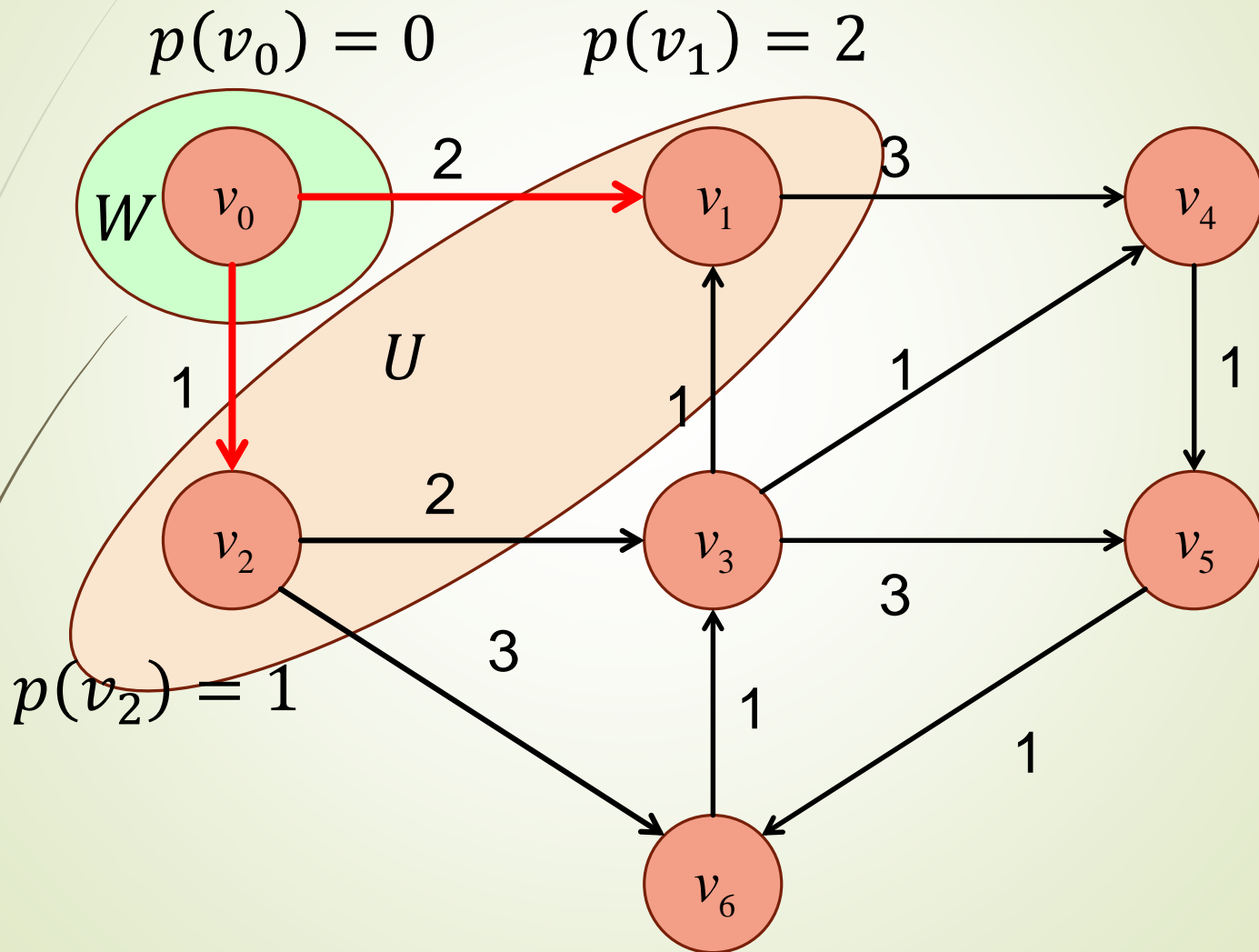




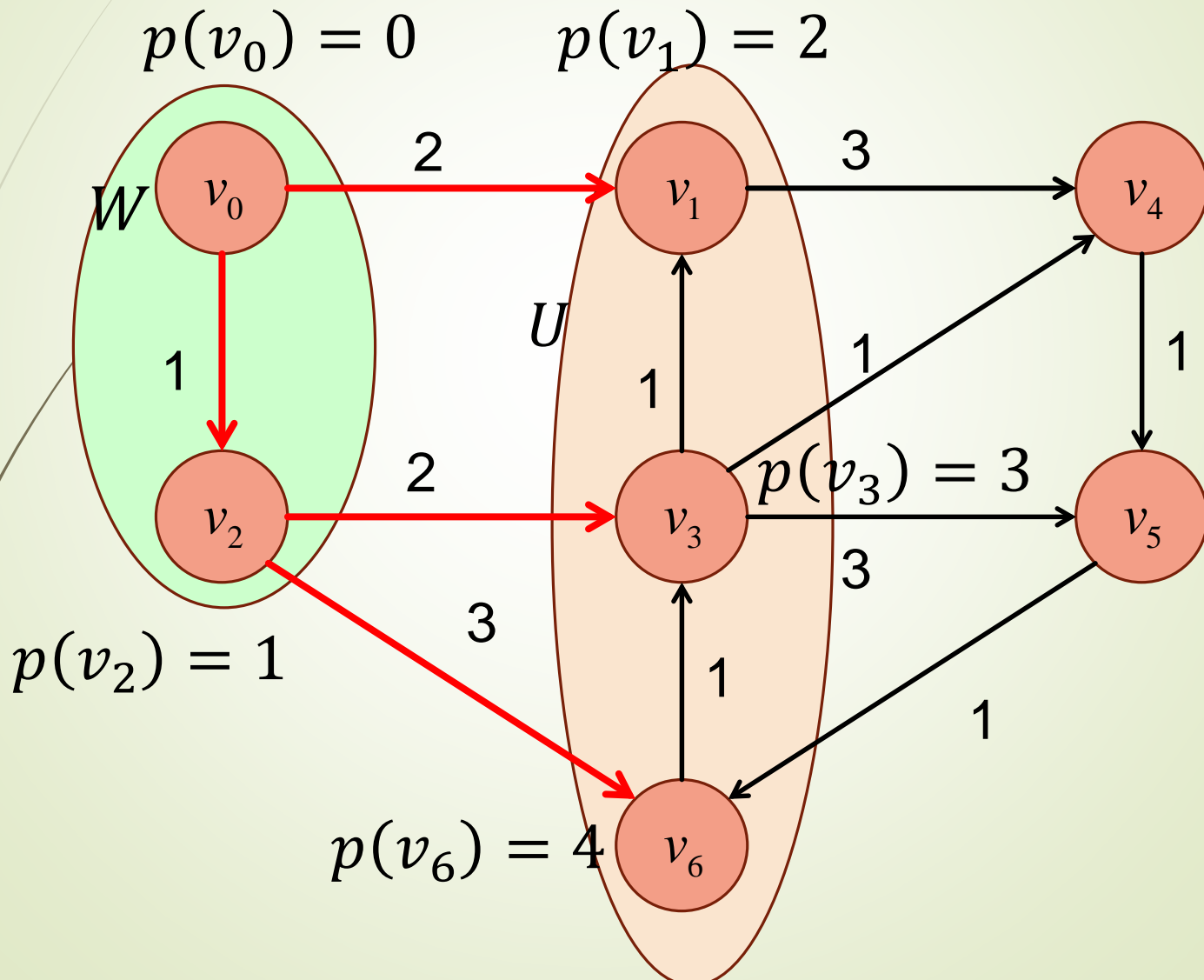
	注目している頂点	$w$	$U$	$p$	$q$	変更を受けた手順
0		$\emptyset$	$\{v_0\}$	$p(v_0) = 0$		
1	$v_0$	$\{v_0\}$	$\{v_1, v_2\}$	$p(v_1) = 2$	$q(v_1) = v_0$	
				$p(v_2) = 1$	$q(v_2) = v_0$	
2	$v_2$	$\{v_0, v_2\}$	$\{v_1, v_3\}$	$p(v_3) = 4$	$q(v_3) = v_2$	3
3	$v_1$	$\{v_0, v_1, v_2\}$	$\{v_3, v_4\}$	$p(v_4) = 5$	$q(v_4) = v_1$	4
				$p(v_3) = 3$	$q(v_3) = v_1$	
4	$v_3$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3\}$	$\{v_4\}$	$p(v_4) = 4$	$q(v_4) = v_3$	
5	$v_4$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3, v_4\}$	$\emptyset$			

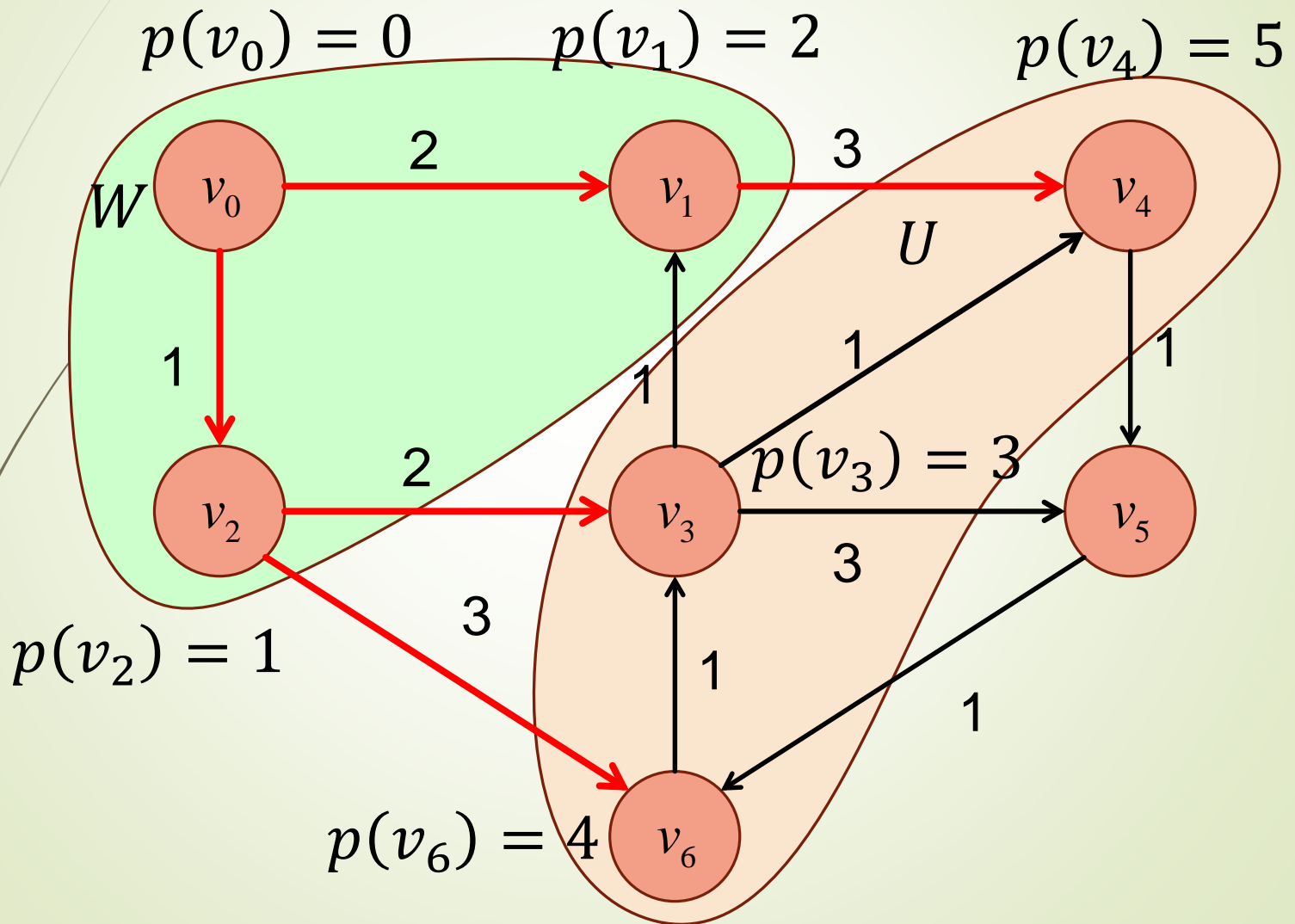
## 例2

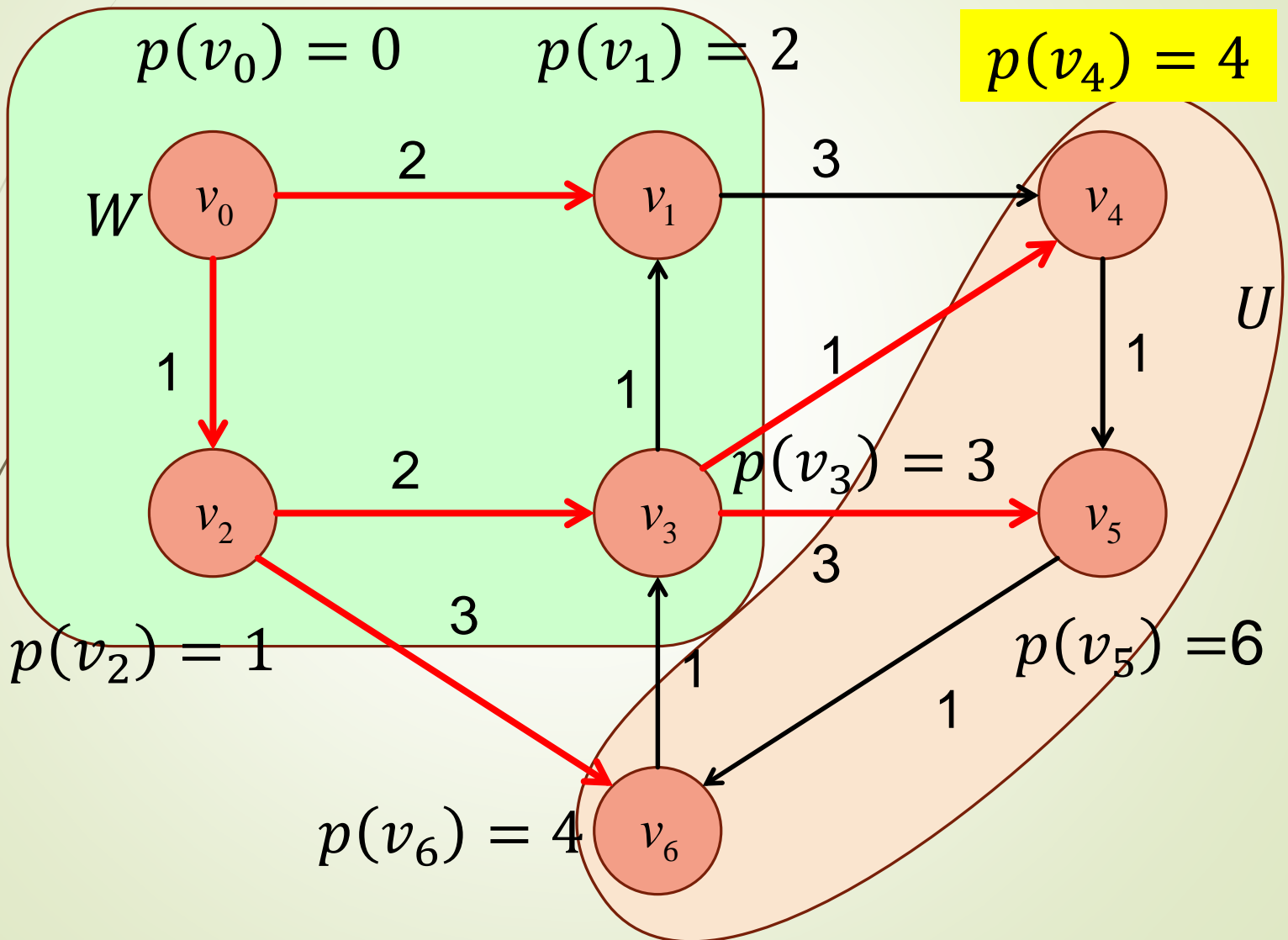


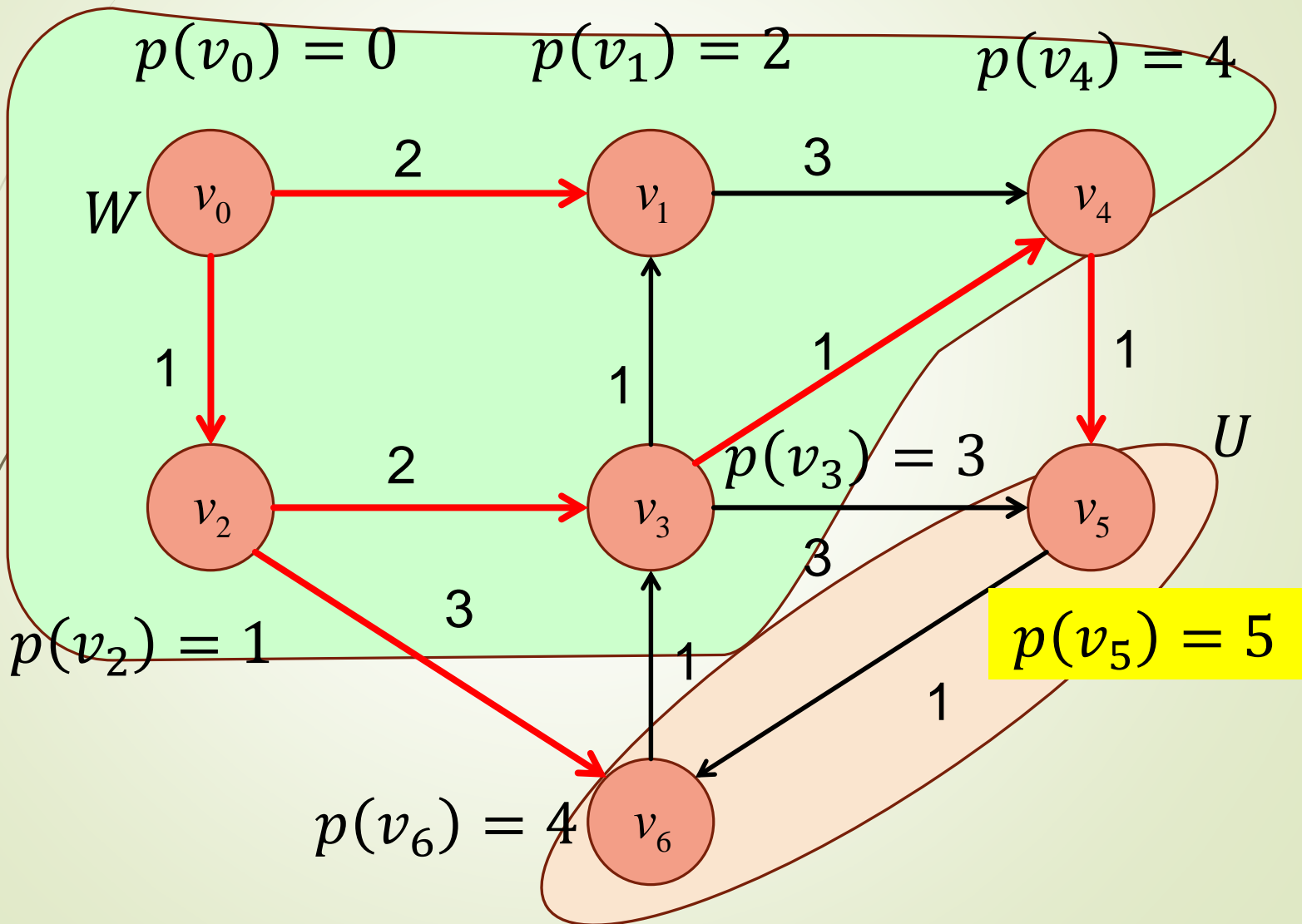


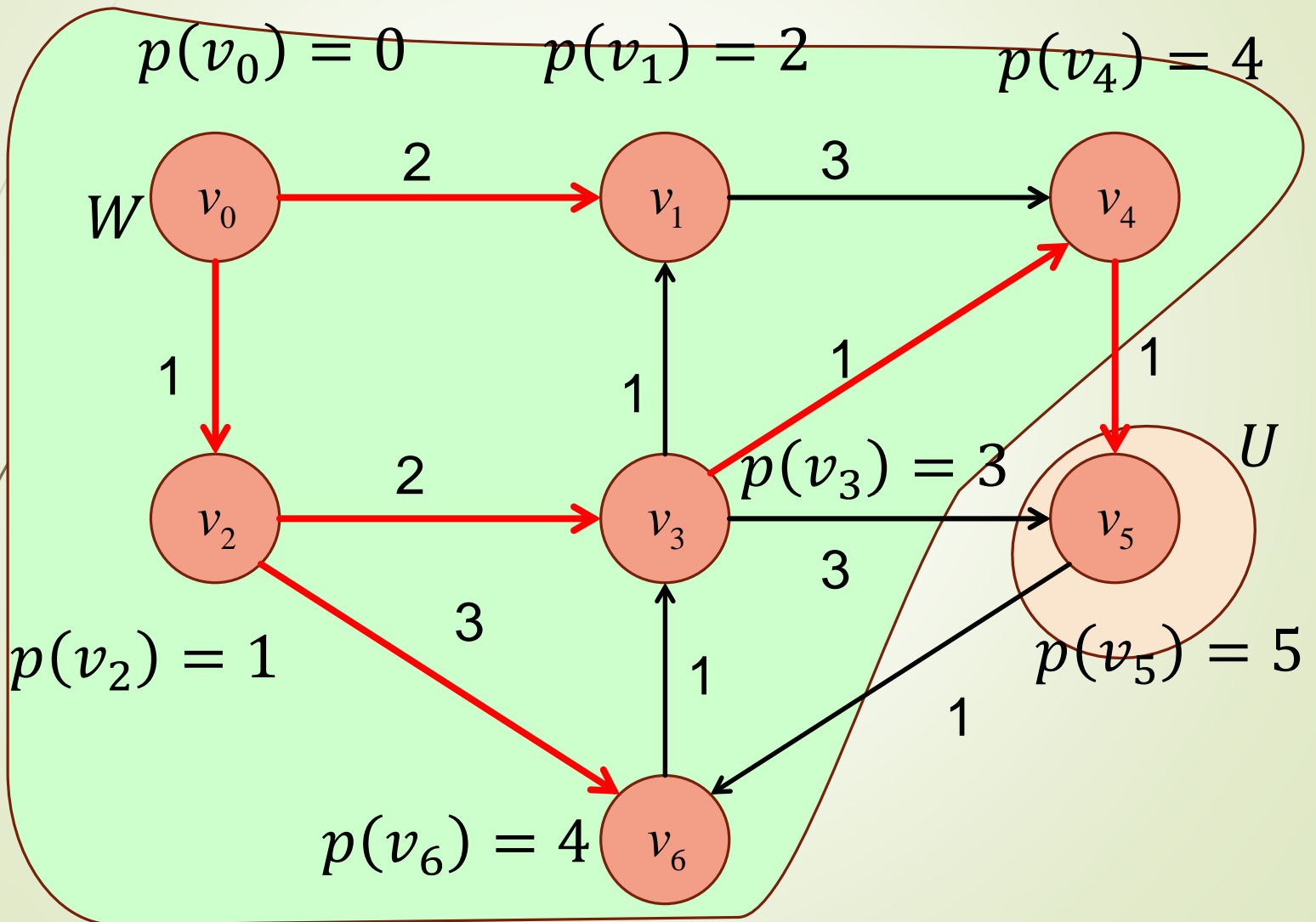


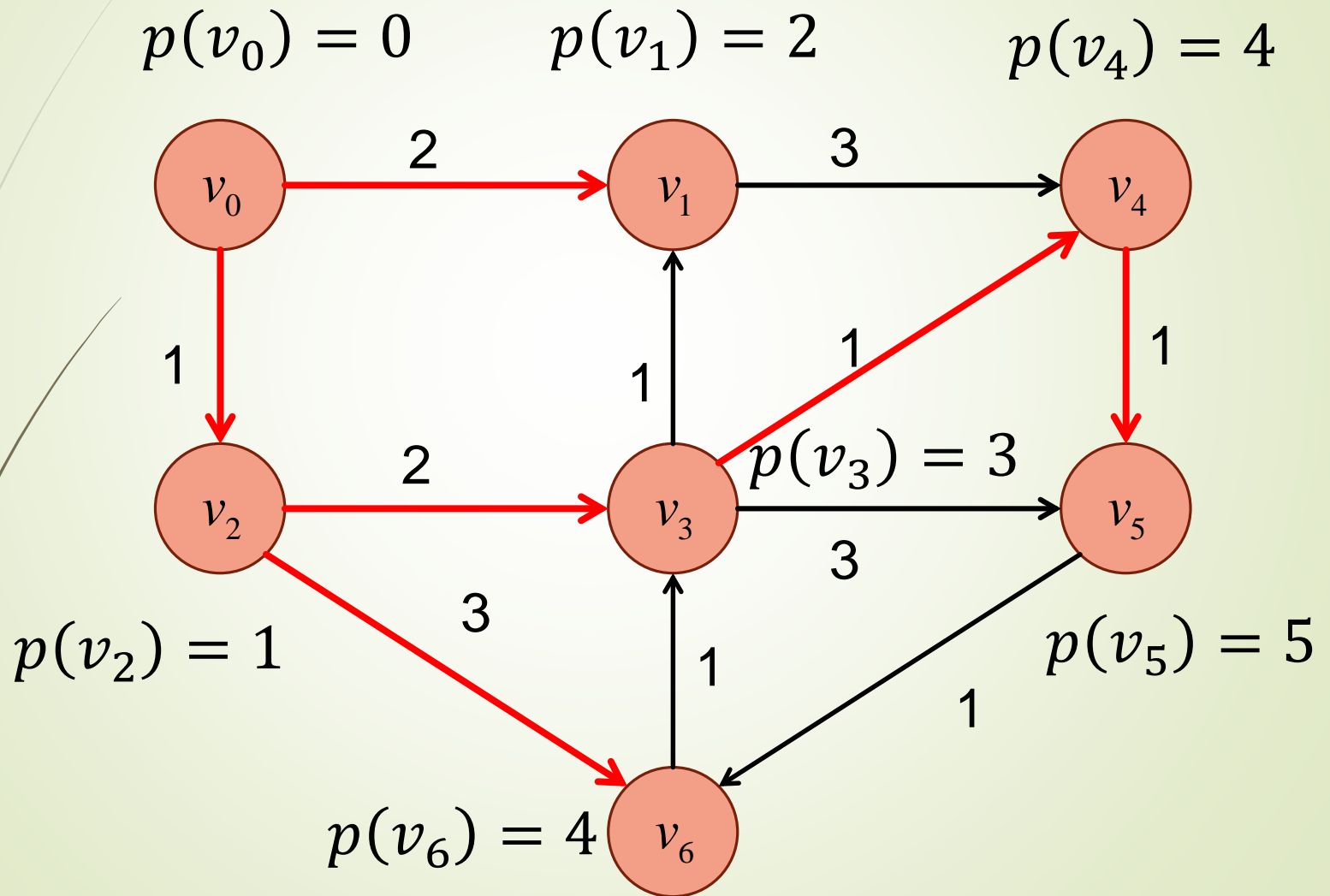












	注目している 頂点	$w$	$U$	$p$	$q$	変更を受けた 手順
0		$\emptyset$	$\{v_0\}$	$p(v_0) = 0$		
1	$v_0$	$\{v_0\}$	$\{v_1, v_2\}$	$p(v_1) = 2$	$q(v_1) = v_0$	
				$p(v_2) = 1$	$q(v_2) = v_0$	
2	$v_2$	$\{v_0, v_2\}$	$\{v_1, v_3, v_6\}$	$p(v_3) = 3$	$q(v_3) = v_2$	
				$p(v_6) = 4$	$q(v_6) = v_2$	
3	$v_1$	$\{v_0, v_1, v_2\}$	$\{v_3, v_4, v_6\}$	$p(v_4) = 5$	$q(v_4) = v_1$	4
4	$v_3$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3\}$	$\{v_4, v_5, v_6\}$	$p(v_5) = 6$	$q(v_5) = v_3$	5
				$p(v_4) = 4$	$q(v_4) = v_3$	
5	$v_4$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3, v_4\}$	$\{v_5, v_6\}$	$p(v_5) = 5$	$q(v_4) = v_3$	
6	$v_6$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3, v_4, v_6\}$	$\{v_5\}$			
7	$v_5$	$\{v_0, v_1, v_2, v_3, v_4, v_5, v_6\}$	$\emptyset$			

# Dijkstra法の正当性 証明概要

- ➡ 補題1: 頂点は、始点からの距離が短い順に $W$ に入る。また、 $W$ に入った頂点の距離を更新することはない
- ➡ 補題2:  $U$ 及び $W$ に属する頂点には、始点からの経路があり、その時点で最短である。



# 補題1

➡ Dijkstra法の実行に伴って、頂点が $v_0, v_1, v_2, \dots$ の順に集合 $W$ に追加されるとする

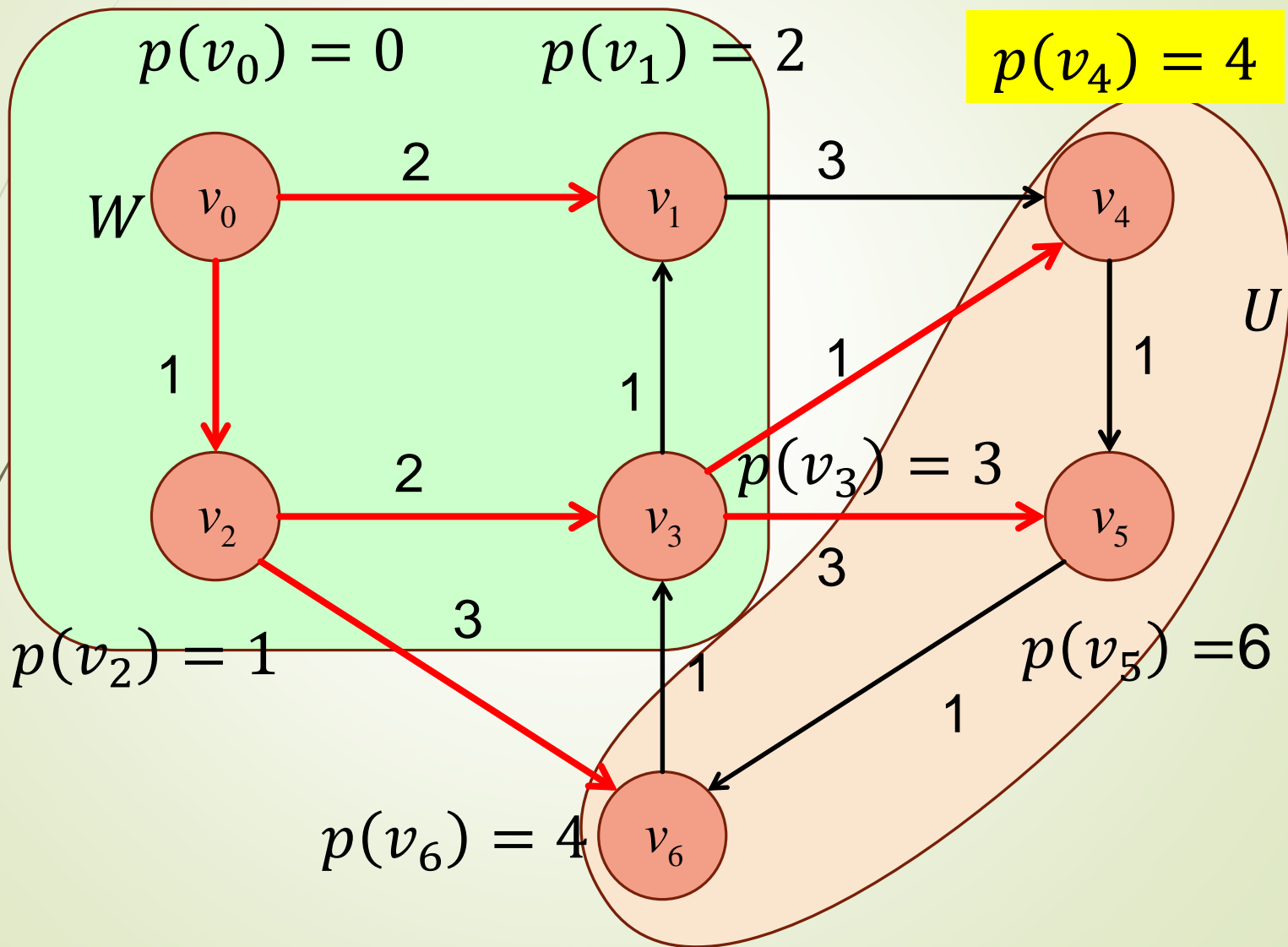
➡ 頂点名は、元のネットワークの頂点名でないことに注意

$$0 \leq p(v_0) \leq p(v_1) \leq p(v_2) \leq \dots \leq p(v_i) \leq p(v_{i+1}) \leq \dots$$

➡ つまり $W$ には、距離の小さい頂点から順に追加されていく。従って、 $W$ に入った頂点 $v$ に対する $p(v)$ が後から更新されることはない。

## 補題1が正しいこと

- ▶ Dijkstra法の実行中に、以下が常に成り立つことを示す
    - ▶  $W$ の要素である頂点への距離は、 $W$ の要素でない任意の頂点への距離より大きいことはない
- $$\max\{p(u) \mid u \in W\} \leq \min\{p(u) \mid u \in V \setminus W\}$$
- ▶  $\forall v \in U \subseteq V \setminus W$ に対して  $p(v) \geq p(u), \forall u \in W$ 
    - ▶  $p(v)$ を更新することはない



## 補題2

- ➡  $U$  及び  $W$  に属する頂点には、始点からの最短経路がある

## 補題2が正しいこと

- ➡  $U$  及び  $W$  に属する頂点には、始点からの最短経路がある: 自明
- ➡  $W$  に属する頂点は、より短い経路が見つかる度に更新 → やがて  $U$  に入り、距離確定